

筆山

第29号 / 2000年12月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

〒106-0032 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201
E-mail : tsuruwa@mxq.mesh.ne.jp 関東支部ホームページ : www.2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwa/kantosibu.htm



平成12年11月17日母校八十周年記念式典が土佐高講堂において厳かに執り行われた。

傘寿

41回生 佐竹真一

昨年6月、エジプト観光省顧問としてJICAから派遣されカイロに着任した時、「dirty, dusty, noisy, crowded」、この4つの単語が、最初に頭にこびり付いた。首都がこんな第一印象では、観光開発の道程は険しい、二一七年までに外国人訪問者数を二七 万人にすると言う国家目標など夢のまた夢、えらい所に来てしまった、と禪を締め直したものだ。

焦りがちな自分に、任期は2年、七 年の歴史から見るとほんの三分の一、誤差の範囲だと言いつつ聞かせ、周りをじっくり見渡すようにした。しかし、時間が経過しても、折に触れてこの4つの単語が出てきてしまう。政府の要人達に会い、第一印象に触れる時、必ず微笑みを保って、この順序のまま話してきた。世界的な歴史遺産や紅海沿岸の大規模なリゾート開発に目を奪われて、足元の手入れを怠り、利己的な行動を放置しては、バラ色の未来はない、多くのエジプト人にも見える対策が必要だ、と機会ある毎に説いてきた。この1年の間に、カイロ市内で毎朝清掃される範囲が、ゆっくりながら着実に広がり、見違える程ゴミのない道路が増え、ナイル川べりの景観整備も進んでいるのは、この異骨相のせいもあるかな？とちよっぴり自負している。

母校は、まだ「僅か」80年の歴史だが、この4つの単語がもう当て嵌まり始めてはいないだろうか？「チリ一つないポロ校舎」を誇った伝統は、脈々として流れているだろうか？人間なら傘寿という誠に出度い節目を、到達点ではなく中継点として、21世紀に高々と帆を上げ、船出して欲しいものだ。

母校八十周年記念行事執り行われる

平成12年11月16日(木)、17日(金)の両日、土佐中等学校八十周年記念式典が盛大に執り行われました。



「記念講演」
土佐高生及び中学3年生対象
11月16日(木) 13:00
土佐高講堂
講師 岡村甫(32回生)
演題 「夢・努力・才能・運」



岡村先輩による「夢・努力・才能・運」の演題による講演が行われた。熱気が舞台から吹き寄せるようでもあり、体育館が春風に包まれるようでもあり、あつという間の90分の「講義」でした。その後質問の時間を、15秒で切りに掛かった司会者を押しとどめ、質問がなければ、此処から降りられない、とイゴソソウぶりを発揮され、これに誘われて生徒から手が上がる。やっと、土佐高らしくなって、遣り取りが噛み合って行きました。



式典は、簡潔にして、要点を押さえた進行ぶり。校歌を歌い終ったのが午前11時。宇田理事長が、式辞にて、「百周年委員会を発足させて、ビジョンを描き、理事会直属の実行委員会を作って、この実現に万全を期す。この時に、此処に出席する多くは、この世を去っているだろうが、生徒諸君は、是非、引き継いでいって欲しい。」旨、言明。



「祝賀会」
11月17日(金) 17:00
高知新阪急ホテル



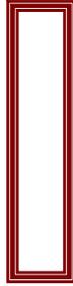
速報

関東支部活動報告

事務局長 鶴和千秋(41回生)

あと一歩、ほとんど掴みかけた甲子園、母校野球部の健闘に全国の同窓が手に汗握った夏も遠い日の夢のようです。イラレの事務局は、県予選の準決勝に進出した頃から、寄付金集めや甲子園応援ツアーの準備に取りかかり、全国の同窓に各地の代表校のビデオテープを頼んだりしたのですが・・・。「決まる前から余計なことするきイカン、事務局がA級戦犯じゃ」ときついお叱りを受けてしまいました。その興奮も冷めやらぬ8月5日同窓会本部総会が開かれ、関東支部からは宮地支部長、市川幹事長、佐々木副幹事長、溝淵顧問等が帰高、前夜の岡内幹事長の高知銀行頭取就任を祝つ会から、本番の総会、懇親会まで、今年も関東支部の存在感を存分に発揮してくれました。

2月24日(土)に行います。総会への注文、記念講演の希望、その他関東支部へのご要望がありましたら、学年幹事又は事務局へお寄せ下さい。



支部名簿発刊に向けて

大石和男(40回生)

来年、21世紀最初の記念すべき年に、関東支部名簿を発行することとなりました。このため、今回訂正用カードを同封しました。本部発行の80周年名簿と見比べ、変更のあった方は必ずご返送下さい。名簿データの更新は、自己申告が原則です。この外、友人や学年幹事の連絡を頼りに、日々更新を続けております。神様がいつも見守っていて、更新を指示しているなど、自己中心的発想をしないで下さい。飽くまで、草の根の運動です。

最近、名簿を売り買ひして、商売に利用する心無い人達を見かけます。かと言って、名簿を発行しないと、同窓生間の交流の絆が断たれてしまいます。名簿は同窓会の命です。お互い交流を広め、親睦を深めるために、ご活用下さい。

また、同期会を開く時などに、最新の情報を提供できませう。同期会は、新しい情報を得る絶好の場でもあります。事務局へもフィードバックをお願いします。左記にご連絡下さい。

oishi@thu.ac.jp

名簿は、財政的制約から、3年に1回の発行です。98年版の時は、編集と印刷で百二十万円、発送費で八十五万円、計二百十五万円掛かりました。これは七百名分の年会費に相当します。今までの会員数は二千六百名、会費をお納め下さった方は約八百人。一年分の会費が全て名簿に注ぎ込まれた勘定です。次回の会員数は約三千五百名。発送費だけでも百十五万円に増えます。大変な事になりそうです。社会人の皆様、年会費納入にご協力下さい。

最近では電子メールが便利で、これを通じて入会、更新をしてくる人も増えました。ただ、悪用されることもあります。次回の名簿にメールアドレスを載せるかどうか、検討中です。

以下は、本部への愚痴です。軽くお聞き流しを。5年前のことである。本部

から名簿が発行された。データが新しいものと信じた筆者は、支部名簿のデータベースに上書きし、数十人のデータを失った。以来、本部名簿を信用していない。

とは言え、多大な金と本部の威信をかけた名簿である。無視はできない。通勤電車の中、今回の80周年名簿を1頁1頁丹念にチェックしてみた。この3月、土佐高から要請を受け関東支部の最新データを送った筈である。5年前と同じこと、全く活用されていなかった。2年前に作った支部名簿からの転用も目立つ。データが古く、すぐ分かる。

80周年名簿と付き合わせる。関東支部への未登録者は九百五十八名にも上る。現在、一人一人に会員番号を割り当て、打ち込みを行っている。30回生までは流石に未登録者が少ない。30、40回代では、番号を打ち込むと「重複しています」と表示される。既に登録済み、支部名簿への更新が小まめに行われている証拠である。少し嬉しくなる。50、60回代は未登録者が多い。かなりの数、会員が増えそうである。70回以降、学生の住所はほとんど親元になっている。

深い配慮からか、単なる手振きなのか。

お悔やみ申し上げます

- 13 秦 親憲 H 97.7.2
- 18 山崎 栄龍 H 93.3.17
- 28 K 田井 淳夫 H 912.3
- 33 S 安岡 健一郎
- 35 O 岡林 邦夫 H 12.2
- 37 O 山本 晴茂 H 11.3.11
- 38 K 須藤 睦雄 H 12.5.22
- 43 S 西本 澄夫 H 11.9.26
- 45 K 戸田 雄幸 H 12.3.12
- 46 O 山本 賢治

(大分以前にお亡くなりになられた方で今回新たに判明したご逝去者も含みます)

母校をより

学校長 森田幸雄

立冬も過ぎ南国土佐でもさすがに冷気が漲り始めました。関東支部の皆様にはますますご健勝のことと存じ心からお喜び申し上げます。

さて2学期も既に半ばを過ぎましたが、教育諸活動も現在まで順調に進行中であります。これもひとえに先輩諸兄姉の絶えざるご激励の賜物と存じ心から御礼申し上げます。

2学期最大の行事である第53回中高合同の大運動会も、1日延期をみたのみで9月24日生徒実行委員会の努力で盛大かつ整然と実施されました。全国的にも運動会的行事が衰微しつつあるとされる中で、本校の運動会はますます意気軒昂たるものがあり、これはわが校の誇るべき伝統的教育財産であると自負しています。先輩各位には機会あれば是非ご来場ご参加を頂きご激励を賜れば幸いであります。

ところで先日東京の折、羽田空港は往復とも中・高校生諸君で大混雑でした。修学旅行の最盛期であることを実感しました。本校も来年1月中旬高1生の修学旅行(集団研修)を予定していますが、従来型を見直し、越後湯沢でのスキーに加え東京でのコース別研修(例えば企業訪問や大学見学等)を実施することとしました。初めての試みですが、生徒諸君の自主的な研修を通して文武両道にも叶う、一味違った集団研修的行事に育って欲しいと希っています。首都圏での日程が多くなりますので関東支部の諸先輩には何卒暖かいご支援かたを心からお願い申し上げます。

最後にご承知のとおり11月17日には創立80周年記念式典が実施され、来るべき21世紀へ向けての大飛躍を学校関係者挙げて誓い合う新たな契機になることを期待しています。先日も岡村同窓会長と宇田理事長とで21世紀における本校の未来像と、記念事業である教員研修の推進策等についてご協議を頂きましたが、学校といたしましてはそれぞれ項目に関し具体的実施計画の策定と実現がたに取組む所存ですので、このことに関する忌憚なきご意見ご要望をお待ち申しています。

向寒の砌、関東支部のますますのご発展と、宮地支部長さんはじめ会員各位のご健勝を祈念申し上げます。報告とさせていただきます。

『薫先生』出版にあたって
坂本 隆(47回生)

関東支部の皆様、こんにちは。ご縁のいたいで母校に帰任・奉職することになって、はや10年目を迎える坂本です。昭和47年に卒業後、出身地に戻って大学生を送り、平成3年春まで神奈川の県立高校に勤務しておりましたので、その間18年、皆様の支部に所

属させて頂いたでお世話になりました。現在、長男がかつての私同様、ほとんど不熱心な幽霊会員(?)として、たまに支部総会に出席させていただいているようです。こいつが同窓会関東支部の有り難さを理解できるようにするには、まだ暫くかかることでしょう。不肖私の息子ですから、申し訳ありません。ご勘弁下さい。

さて本題に入ります。このたび、同窓会関東支部長・宮地貫一先輩をはじめ、関東支部の多くの同窓諸先輩のご尽力をいただきまして、拙著『薫先生・向陽の窓辺に遺されたもの』を出させていただくことができました。心よりお礼申し上げます。ただ聞くところによりますと、少なくとも二〇〇部は売れないと同窓会本部はこの事業で赤字になるそうで、私の拙文がそんなに売れるはずは毛頭なく、出版していただきながら、最初から困ったことになったものだと途方に暮れておりますが、現在の正直なところでは、

それはさておき、今回の『薫先生』をまとめる過程で、再確認させていただくことが

できたことは、母校・土佐の同窓生の「人材」がいかに豊富であるか、という改めての事実でした。そして、同時に本校が持つ宝「どの県内他校も及ばぬ優れた「人材」が、残念にも活かされていない」ということでもありました。具体例は説明を省きます。ここでは、私の述べる「人材」が、もちろん現在ご活躍中の皆様のことであり、同時に今は一線を退かれた方たちも含まれ、さらに数々の業績を遺されながら亡くなられた同窓大先輩の方々のことでもあるという点にのみとどめたいと思います。

そして、『薫先生』の生涯を訪ねた私のこの6年間は、私なりに土佐中学校・高等学校の80年を概観する作業でもありました。押しも押されもない戦前の少数英才教育の25年間から始まり、戦後、苦難の底から再建を果たし、いち早く中高一貫・男女共学・多数英才・文武両道を取り入れて教育界に旋風を巻き起こした昭和40年代前半まで、そのほぼ半世紀の間に本校が果たした役割が絶大であったことは、改めて論ずるまでもないでしょう。そして、それが

現在までの約30年間で、それまで蓄積してきた貴重な財産を食い潰してきたというご批判に対して、残念ながらそれを全否定できない状態であったこともまた、認めざるをえないところでは、

しかし、『薫先生』のあとがきで触れたとおり、過去を昔物語で懐かしむだけで現在を嘆くよりも、建学黎明の礎となった同窓諸先輩の確かな足跡を検証することから、これからの土佐の生きるべき姿を共に考えたい、というのが今回『薫先生』に取り組んだ主題です。土佐校教育の真価が問われるこれからの20年に向けて、将来同窓の同志となるべき現役の子供たちと、さらに本校の宝である同窓諸先輩の皆様と共に、私たちの愛する母校・土佐の、これからの未来を語り合いたいと思えます。そのきっかけとなれば、『薫先生』のはたすべき役割の一端は全うされた、ということになりましょうか。

今後、関東支部の皆様には、愚息ともども宜しくご指導の程をお願いして、「発刊にあたって」の結びといたします。有り難ございました。